

BrightEyes 瞳を輝かせて

山梨

新たな特産品を目指して

あざぶ梅栽培振興協議会



梅 といえば、梅干しや梅酒などをはじめ、さまざまな料理の食材として使われる日本人におなじみの果実です。中国原産のバラ科の木で、3月ごろに甘酸っぱく香りの高い白色や紅色の花を咲かせ、6月ごろに収穫されます。今回はこの梅の栽培に地域で取り組んでいる、あざぶ梅栽培振興協議会を紹介いたします。

協議会が発足したのは、5年前のこと。平成11年に飭生地区で始まった、畑を整備し畑作経営の合理化と農業生産性の向上を目的にした土地改良事業・県畑地帯総合土地改良事業が行われたことがきっかけです。生産する

▶▶▶プロフィール

農地の集団化にあわせて平成11年に地権者で設立。会員は52人。平成15年度農用地等集団化優良地区表彰式で、三好町土地改良区・三好北部地区南工区とともに「東海農用地等集団化協議会会長賞」を受賞。観光農園も視野に入れて「梅の花の名所」を目指している。

作物を決めるため、会員が愛知県のほか、静岡県や三重県などの先進地を視察。最終的に梅を栽培することを決めました。



収穫を待つ梅の実

また地区内で、仕事の都合などにより梅園の管理ができない兼業農家については、協議会が委託を受けて作業を行い、「地域の高齢者の働く機会や生きがい作りにも繋げていきたい」と梅の栽培による地域活性化を目指しています。

現在、協議会が作付けを行っている面積はおよそ9ヘクタール。本数は3,000本ほどです。「南高」「玉英」など5品種を栽培し、2、3年後の本格出荷に向けて試行錯誤しています。昨年は、収穫した梅で、梅ワインを200本製造。秋に皆さんの郷で開催された産業フェスタ三好で販売し、好評を得ました。協議会の会員で、同土地改良事業三好北部地区南工区長の古河正良さんは「紅白のしだれ梅を50本植えているので、来年の3月ごろには、梅祭りを開催したいですね。そして、梅が三好の新たな特産品になれば」と夢を描きます。

今後も会員の皆さんで協力して、夢を持って梅作りにチャレンジしてください。

みつけたみよしの はつつさん

規則正しい生活で健康な毎日

鈴木 錬一さん（黒笹）

毎朝4時ごろに起きて、仕事に出掛けるという鈴木さん。朝一番で三好カントリークラブまで通い、2時間ほど働いています。「平成3年から毎日この生活を続けています。朝早く起きると気持ちがいいし、健康的です。」とにっこり。そして、「仕事終えてからの時間で、囲碁などの趣味を楽しみながら、辺りが暗くなるまで農業にも精を出します。「田植えが終わったので、次はナスやトマト、サトイモの手入れだなあ」と元気がいっぱいです。鈴木さんが最近力をいれているのがフォークダンス。月4回の練習に参加しています。「相手の足を踏まないように、考えながら動くので、ボケ防止にもなっていると思います。一緒にフォークダンスサークルで活動してくれる男性がもつといるといいですね」と意欲的です。いつまでも元気に楽しんでください。



▶▶▶プロフィール

すずき・れんいち 大正15年生まれ78歳。囲碁やゴルフ、グラウンドゴルフ、フォークダンスなど趣味は多彩。三好フォークダンスサークルさくら草の会長。昭和55年に民謡を習い始めてから禁煙に成功し、健康を維持している。また普段から、肌着を着ないようにすることも健康に繋がっている。

みよしっ子

南中学校

弓道部

南中学校の弓道部を紹介します。顧問の田中直也先生とキャプテンの竹村駿彦君に話を伺いました。

弓道は、的を正確に射抜く技術や体力、精神力を養って競い合う日本古来からの伝統武術です。授業後、練習が始まり弓を構えると、普段、笑い声が絶えない部員たちの表情は真剣そのもの。弓を打つまでの8種類の動作、射法八節を身に付けようと練習に励みます。「射的時は集中力を高めるため、一つ一つの動作を大切に、練習に臨んでいます」と話す竹村君。

「まず基本の型を身に付け、あいさつなどの『礼』も大切にして、精神面も鍛えてほしい」と指導にあたる田中先生は、温かく見守ります。竹村君は「東西加茂大会で優勝し、東海大会やその先の全国大会を目指して頑張りたい」と力強く抱負を語っていました。※弓道部では指導ボランティアを募集しています。詳しくは、南中学校へ電話(☎)34-12022へ

